

CONTENTS

No.274 2022年6月号 草月指導者連盟機関誌

Newsletter

- 01 Keep Right on Talking!
No.82
- 02 Message from Kiri Teshigahara
- 03 One Two Step ㊸
- 04 Information
- 05 IMPORTANT
- 07 Introduction of new Study Group
overseas / Information

- 32 カレンダー
- 26 インフォメーション 本部教室 / 草月WEST
- 25 第103回草月いけばな展開催のお知らせ
- 24 レビュー 日本いけばな芸術九州展 / 勅使河原茜家元によるいけばなインスタレーション
- 20 草月WEST家元教室いけばな展
- 18 勅使河原茜の花「葉の色、葉の形」
- 16 オンラインで楽しむ草月のいけばな
- 7 学校いけばな
- 6 百花万葉
- 4 2022年度 全国支部長一覧
- 2 支部活動報告 香川県支部展 / 愛媛県支部展
- だから、おしゃべりはやめられない 第82回



『水に色をいける』

家元が水にインクを落とし色をいける。
目まぐるしく変化する色彩、
その一瞬を切り取るシリーズです。

表紙作品=勅使河原茜
表紙アートディレクション=永井裕明 (N.G.inc.)
表紙デザイン=前田由貴 (N.G.inc.)
表紙写真=金子親一
印刷=東洋紙業株式会社
制作協力=丸紅フォレストリンクス株式会社



発行日 = 2022年6月1日 編集・制作 = 草月文化事業株式会社 出版部 編集制作室 発行 = 一般財団法人草月会
〒107-8505 東京都港区赤坂7-2-21 TEL = 03-3408-1154 FAX = 03-3405-4947 E-mail = members@sogetsu.or.jp

花のプレリュード

草月いけばな展



Sogetsu Ikebana Exhibition
"Flower Prelude"
June 8 (Wed.) - 26 (Sun.), 2022



花をいけることをただ無心に楽しむ。
花を介して笑顔を交わし合う。
今回は、いけばなの喜びが真っ直ぐに伝わる、
そんな展覧会を開催したいと思っています。
ここ数年の自粛生活は、
私たち一人ひとりが花をいけることの意味や価値を
深く問い直す機会になったのではないのでしょうか。
だからこそ、ここからもう一度、
素直に自由な気持ちで花に向き合い、
創造の喜びを形にしてほしいと思います。
思いも新たに次のステージへ。
あなただけの「私の花」を
追い求めていただきたいと願っています。

草月流家元 勅使河原 茜

家元作品展示

6月3日(金)～7月11日(月) ※予定
草月会館1階・正面エントランス

【会期】

2022年6月8日(水)～26日(日)

〈入場無料〉

水・土曜日は10:30～19:00

木・日曜日は10:30～17:30

※入場は閉場30分前まで

1期:6月8日(水)・9日(木)

2期:6月11日(土)・12日(日)

3期:6月15日(水)・16日(木)

4期:6月18日(土)・19日(日)

5期:6月22日(水)・23日(木)

6期:6月25日(土)・26日(日)

※各期2日間、6期制 ※断続的開催

【会場】

草月会館2階談話室

監修:勅使河原茜家元

主催:一般財団法人草月会

企画運営:事業部事業課

※天災及びその他不可抗力による事由により、草月いけばな展の
開催を延期・中止する場合がございますので、予めご了承ください。

お問い合わせ [事業課] TEL: 03-3408-1156 / FAX: 03-3405-4947 / E-mail: kikaku@sogetsu.or.jp

今 年も早いもので、もうすぐ半分が過ぎようとしています。「一年の計は元旦にあり」と言われるように、誰しも年のはじめには何かしらの目標を立てるのではないかと思いますが、数ヶ月経過した現在の進捗状況はいかがでしょう？

かくいう私も今年、「ゴルフ」と「英会話」という目標を立てました。自分の性格的に追いつめられる、

だから、おしゃべりはやめられない⁸²

勅使河原茜

ゴルフと英会話

するため、「三人でコースを回れたらどんなに楽しんだろう。運動にもなるし！」と一念発起。ゴルフクラブのセットを買い揃え、さっそく息子たちにも報告したところ、ゴルフを始めたこと自体は応援してくれている様子です。今はまだ打ちっ放しに行く程度ですが、今年の年末には二人と一緒にコースデビューができればいいと考えています。そしていずれば、

のは苦手。かと言って、追いつめられないといつまでもやらないことをわかっているので、家元研究科の授業など至るところで宣言しては、自らにプレッシャーをかけています。

まずはゴルフについて。父や母からたびたび誘われていたものの、当時は「興味がないから」と断っていました。しかし、二人の息子たちがどちらも嗜んでい

「草月カップ」を開催したいという構想もあります。

ゴルフ好きの皆さん、どうぞご期待ください！

次に英会話について。これまでマンツーマンレッスンはじめ、あらゆることを試しましたが、どうにも性に合わずここまでできてしまいました。しかし、自分が英語をべらべら話している夢を見たり、周囲の人間によればお酒が入るとやたらと英語を連発してい

るらしく、自分の中にある「英語で会話したい」という強い願望を改めて実感しないわけにはいきませんでした。また、海外での講習会などでは通訳を介してのコミュニケーションが多くなるのですが、「ん？私の言いたいことはニュアンスが少し違うような……」という場面に出くわすことがあります。外国の方にも自分の言葉で自分の気持ちを直接伝えたいと思ったのも、決意したきっかけの一つです。

家元に就任して20年が経ち、ここまでがむしやらに駆け抜けてきました。今まではそれだけで満足していましたが、もしかして仕事を言い訳に、新たなチャレンジを諦めていたのかもしれない。ふつうは60歳の還暦を機に自分の生活を見つめ直したり、第二の人生に向けて目標を立てたりするのでしようが、ご存じのとおり私はコロナ禍の真つ最中に還暦を迎えてしまったため、なんとなくそれも素通りしてきてしまいました。しかし、萱^{げん}が次期家元を継いでくれることになり、精神的に少し余裕が出てきたのか、「自分をもっと磨きたい」という気持ちが自然に湧き上がってきたのです。まず大切なのは何かを始めようという気持ち。もしかすると挫折してしまうかもしれませんが、それはそれでいいのです。何歳になっても、そうやって新しい挑戦をしたり楽しみを見つげたりすることは、人生を豊かにしてくれます

ゴルフセットを揃えて、準備万全の私。これから練習に励みます！



し、希望になります。草月には既にそういうチャレンジ精神旺盛な方がたくさんいらっしゃいますから、私も負けてはいられません。ここで改めて会員の皆さんに宣言してしまいましたから、いよいよ後に引けなくなってしまうかもしれません(笑)。今年の後半もマイペースで精進していききたいと思います。

香川県支部展

ミニいけばな展「花遊覧」

4月16日・17日
岩田神社



- 1 支部合作。「コロナ禍で人々を元気づけたい」という思いから、明るい黄色のひまわりを中心にいけた。
- 2 西山麗千支部長の作品。
- 3 ～ 5 社務所内に展示された作品の一部。場所によっては屋外の藤の花が見える。
- 6 神社の手水舎にも作品を展示。ここにもひまわりを使った。
- 7 境内に咲く孔雀藤。1本の幹から伸びており、高さ2m、広さ23×29mの見事な藤棚になっている。

藤の花とともに楽しむ

樹齢約800年の孔雀藤を有する岩田神社で香川県支部展が開催された。近年はアニメ『鬼滅の刃』が話題となり、作中に登場する鬼が藤の花を忌み嫌っていることから、藤が御神体の同神社は聖地としても人気を集めている。

そもそも2020年に神社よりいけばな展開催の依頼を受けたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止に。昨年が初の開催となり、県内外から多くの人が訪れた。今年もコロナ禍のため、「藤の館」と称される社務所の戸を全開にしての展示となったが、それにより屋外の藤を借景にし、両方を同時に楽しめるというメリットもあった。社務所内は自然光となるため、明るさが均一にならないが、そのことで立体感が出て、作品の美しさが力強さがいっそ引き出された。

愛媛県支部展

天空を仰ぐ

4月23日・24日
松山城二之丸史跡庭園

自然とコラボレーション

松山市の中心部に位置し、今年開園30周年を迎える松山城二之丸史跡庭園にて、愛媛県支部展が開催された。

松山城は日本で12ヶ所しか残っていない「現存12天守」のひとつ。その敷地に整備された二之丸史跡庭園は、市民の憩いの場として親しまれている。コロナ禍の中、より多くの方々が安心して観覧できるようにと、この場所が選ばれた。またここは22年ほど前、まだ家元を継承する前の苗家元が、先代の宏家元の監修のもと、大作を制作したという思い出深い場所でもある。

屋外での展示は、合作あり個人作品ありのバラエティ豊かな構成に。かつての藩主の邸宅の間取りを遺構の上に表現し、その中を水が流れる「奥御殿跡流水園」での展示は、周囲の豊かな自然とともに、訪れた人々に安らぎの時間をもたらした。



- 1 栗林梅光支部長の作品。
- 2 県委員の原田晴霞さんの作品。
- 3 屋内での展示も充実。広々としており、作品同士の間隔も十分。
- 4 ～ 7 個性豊かな個人作・合作が並んだ「奥御殿跡流水園」。ここでは年間500件ほど結婚式の前撮りが行われており、「恋人の聖地」としても認定されている。
- 8 ふだん茶会や句会なども催される庭園内の「聚楽亭」での展示。

いけばなデモとトークショー

2019年9月8日
東京(中央区) / GINZA SIX6階 銀座萬屋書店
大谷美香



萬屋書店の企画で、イベントを実施。デモとトークショーでいけばなの魅力を伝え、ワークショップは定員超えの人気となった。

鶴岡八幡宮 実朝祭献華

2019年8月8日-9日
神奈川(鎌倉市) / 鶴岡八幡宮境内
上原瑞光



毎年実朝祭に鎌倉華道会が行っている献華。四方籠(魚籠)にダリアを沈めるようにいけた。

第55回埼玉県いけばな連合会展

2021年2月26日~28日
埼玉会館第1、2、3展示室
埼玉県支部44名



毎年同じ時期に開催される恒例の花展。写真左は春山祥蘭さん、写真右は岩淵和祥さんの作品。

駅を彩る

2020年2月
宮崎 / JR日豊本線佐土原駅構内
草月3名



駅の利用者に癒やしと季節を感じてもらえるよう、ひめみずき、やつでトルコキキョウで心を込めて制作した。

新聞社の受付に

2021年4月12日~18日
宮崎 / 宮日会館受付
清武陽草



コロナ禍でも春を感じ、晴れ晴れと前向きな気持ちになってほしいと願いを込めて、ガラス花器に涼しげにいけた。

多治見市陶磁器意匠研究所卒業式

2021年3月11日
岐阜 / 多治見市陶磁器意匠研究所
古田静波



外国人のラボ生の制作した花器に魅せられ、桜やブラックリーフなどを使って華やかにいけた。

2022年度 全国支部長一覧

※○印は 2022年度新支部長

	支部名	支部長名	郵便番号	住 所	TEL	FAX
	北海道	池田好佳	064-0808	北海道札幌市中央区南8条西7丁目1033	011-511-9506	同左
	青森県	小村美寿	039-1515	青森県三戸郡五戸町字熊ノ沢25-13	090-5232-9246	-
	岩手県	四役滋陽	020-0033	岩手県盛岡市盛岡駅前北通り6-51パルフェザン302	019-623-5548	同左
○	宮城県	大友春宵	981-0961	宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘6-39-22	022-278-4980	同左
	秋田県	藤澤和交	010-0041	秋田県秋田市広面字樋ノ下29-3	018-832-9420	同左
	山形県	長谷部千仁	992-0023	山形県米沢市下花沢3-3-50	0238-23-5709	同左
	福島県	大河原喜恵	963-0231	福島県郡山市谷地本町46	024-951-0390	同左
	茨城県	大森瀧泉	319-1416	茨城県日立市田尻町4-5-7	0294-43-5588	0294-23-4675
○	栃木県	荒川映翠	320-0061	栃木県宇都宮市宝木町1-27-13	080-5382-5962	-
	群馬県	正木虹映	370-0046	群馬県高崎市江木町47-5	027-327-7624	同左
	千葉県	野村浩秋	266-0005	千葉県千葉市緑区誉田町2-29	043-291-1163	同左
	埼玉県	岡本和絮	330-0073	埼玉県さいたま市浦和区元町2-12-6	048-886-4011	同左
○	東京北	秋山美晴	132-0025	東京都江戸川区松江3-4-22	090-2256-5360	-
	東京西	久保田芳生	190-0014	東京都立川市緑町7-2サンクタス立川1-1201	042-521-1434	同左
○	東京南	泉知萩	146-0095	東京都大田区多摩川2-24-62-2-1305	03-3759-7860	同左
	神奈川	篠田岳青	240-0066	神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町5-2-304	045-331-1798	同左
	山梨県	五味篤恵	400-0015	山梨県甲府市大手1-4-58	055-253-1660	同左
	長野県	山田里楓	390-0831	長野県松本市井川城3-2-14	0263-29-5400	同左
	新潟県	荒川玉萩	950-0045	新潟県新潟市東区神明町13-21	025-273-4324	同左
	富山県	大野珀水	933-0874	富山県高岡市京田262-1	0766-23-7651	同左
	石川県	谷口桂萌	923-0867	石川県小松市幸町2-16-2	0761-24-1813	同左
	福井県	吉元彰蘭	915-0811	福井県越前市本多3-9-23	090-8096-2904	-
	静岡県	大澤秀紅	411-0031	静岡県三島市幸原町1-3-6	055-986-4023	同左
○	愛知県	竹口陽苑	444-2121	愛知県岡崎市鴨田町字北浦49-2	0564-21-3197	同左
	岐阜県	浦野忍花	509-7201	岐阜県恵那市大井町614-15	0573-25-2793	-
○	三重県	中村純麗	515-2316	三重県松阪市嬉野川北町1252-2	0598-42-3545	-
	滋賀県	井元愛華	524-0214	滋賀県守山市立田町1612-4	077-585-2013	同左
	京都	森英琴	612-8208	京都府京都市伏見区下鳥羽但馬町114	075-601-9209	同左
	兵庫県	大向佐都	675-1122	兵庫県加古郡稲美町中村540-42	079-492-8918	同左
	大阪	島田真美楓	533-0013	大阪府大阪市東淀川区豊里6-28-22-701	06-6370-7331	同左
	奈良県	早川邦篁	635-0087	奈良県大和高田市内本町9-6	0745-52-1747	同左
	和歌山県	貴志春香	640-8451	和歌山県和歌山市中213	073-451-4412	同左
	岡山県	三宅寿肇	710-1101	岡山県倉敷市茶屋町1716-9	086-428-2558	同左
	広島県	山上晶絵	721-0907	広島県福山市春日町1-3-34-305	084-943-5676	同左
	山口県	田辺好華	757-0401	山口県宇部市東吉部2157	0836-55-6879	同左
	鳥取県	秦野織旬	683-0804	鳥取県米子市米原9-3-39	0859-34-2601	0859-22-8425
	島根県	増本香則	690-0863	島根県松江市比津町378-3	0852-23-3648	同左
	香川県	西山麗千	769-2302	香川県さぬき市長尾西633-7	0879-52-3068	同左
	愛媛県	栗林梅光	791-8002	愛媛県松山市谷町103-2	089-978-2959	同左
	徳島県	新田陸嘉	770-0861	徳島県徳島市住吉6-1-23	088-625-6806	同左
	高知県	筒井紅水	781-5103	高知県高知市大津乙656-9	088-866-2336	同左
	福岡県	片山紅早	814-0103	福岡県福岡市城南区鳥飼4-16-1	092-843-1875	同左
	佐賀県	田中樹音	849-0905	佐賀県佐賀市金立町千布2509	0952-98-2091	同左
	長崎県	小島星女	850-0053	長崎県長崎市玉園町2-2-2F	095-827-7728	-
	熊本県	佐分利彩苑	862-0922	熊本県熊本市東区三郎1-11-74	096-381-2841	同左
	大分県	山口功葉	870-0023	大分県大分市長浜町2-10-15サーバス長浜701	097-536-3202	-
○	宮崎県	石田南憧	880-0953	宮崎県宮崎市小松台東2-10-2	0985-47-8770	同左
	鹿児島県	島田美佐子	892-0841	鹿児島県鹿児島市照国町2-25	099-225-4050	同左
	沖縄県	森下翠明	902-0069	沖縄県那覇市松島1-14-10ヘアースコート真嘉比405	098-960-8260	同左

サンデー・フォト・倶楽部 2021 写真展

2021年7月20日～25日
茨城／日立市角記念市民ギャラリー
日立草月流7名



写真展の会場に、コロナ禍でも「明るく元気に過ごせるよう」と願いを込めて花を添え、来場者の目を楽しました。

オリンピック選手の迎え花

2021年7月15日～8月5日
東京(港区)／お台場学園港陽小・中学校
平嶋英宝・石川光宝・永井未宝



イギリスのトライアスロンの五輪選手たちの来校に当たり、生徒と迎え花を制作。折り鶴なども添えて喜ばれた。

中平美彦 陶・うつわ展

2021年6月2日～8日
東京(中央区)／日本橋三越本店 本館5階 ギャラリーライフマイニング
諸岡萌昇・畠山知香



陶うつわ作家・中平美彦さんの、シンプルながらかわいらしさと力強さを感じる器に季節の花を添えた。

第11回 草月藁の会いけばな展「花ひらく」

2021年4月17日・18日
富山縣護國神社(遺芳館)
富山県支部 藁の会 写真作品: 梅野恵秀



コロナ禍での開催だったが無事終了。茜家元の家元継承20周年の祝い花を一同出展できたことが何よりの喜びだった。

近代書芸院展会場花

2021年7月23日～26日
埼玉会館
藤本遙染



会場内に大・中・小のいけばなを展示。多様性を意識し、花器もカラフルにして、楽しい空間にした。

東京五輪事前キャンプに

2021年7月22日～31日
山形／村山市民体育館
大場仙華



ブルガリア新体操五輪選手団の事前キャンプに。ブルガリアの国花のばらは必須。期間中3度いけ替えた。

守谷市文化協会華道展

2021年6月26日・27日
茨城／守谷市中央公民館
草月8名 写真作品:(左より) 大山萌陽・今関泰青・蒲田和青



コロナ禍で2年ぶりに地域華道展を開催。小さな作品展だったが、久しぶりのいけばな展は地域の方に喜ばれた。

さどわら驛21会主催 日豊線佐土原駅構内展示

2021年6月20日～30日
宮崎／JR日豊本線佐土原駅構内
樋口南草



梅雨の鬱陶しい日々を乗りきってほしいと願いを込めて、青い実をつけたさんきらい、あじさいなどをいけた。

インド大使夫人与「Touch of Ikebana」

2021年7月27日、29日
東京(新宿区)／インド大使公邸
指導: 松村魚瑛



インド大使夫人より「4レッスンをいけばなのエッセンスを教えてください」と依頼を受け、外交官夫人も交え、花型などを指導。

煌めいて

2021年7月25日～8月末
福島(郡山市)／ホテルハマツロビー
菅野草苑社中



地震被害で休業していたホテル内の飲食店の営業再開に合わせ作品を制作。アルミやガラスで光輝くよう工夫した。

五輪の風

2021年7月9日～9月中旬
神奈川／済生会横浜市東部病院3階ロビー
柳沢香翠・白鳥一晴



東京オリンピック・パラリンピック開催を記念し、ヘルスケアアートとして壁作品を展示。関係者に好評だった。

ホテルのエントランスにいける

2021年7月8日～14日
ホテルロスイン高知
久保順苑



宿泊客に向け、「元気が出るおもてなし」をコンセプトに、ゆり、トルコキキョウ、れんぎょうをいけた。

SAPPOROぶんだんきょうフェスティバル

2021年8月20日～22日
北海道／札幌市民交流プラザ
草月6名



札幌文化団体協議会で行われる各部門の発表会 いけばな部門からは10流派が参加し、草月は200枚の蓮をいけた。

第33回草月流勉強会

2021年8月20日～9月1日
東京(足立区)／よみうりカルチャー北千住
指導：山田翠



カルチャーセンターの講座の一環として開催。受講生は全員参加で、前年に続き廃材を利用した作品を制作した。

三重県支部家元継承20周年記念行事 ホテルにいける

2021年8月22日～28日
三重／都ホテル四日市
高木紫星・園野絢千・水谷真調



コロナ禍で思うようにいかない日々の中で「元気を出して！」と思いを込めて制作。多くの方が写真を撮っていた。

第45回総社市民大学講座

2021年8月21日
岡山／総社市民会館
佐藤春湖・赤澤香慶



コロナ禍の中、希望のエネルギーを届けられるようにと、優しい気持ちで、心を込めながらいけた。

オンラインで花遊び2021

2021年9月～11月
ホームページ、フェイスブック、インスタグラム
グループフリーデル



ほぼ毎年行っているグループ花展がコロナ禍で開催できなかった代わりに、お稽古の作品などをSNSで発信した。

草月流こどもいけばな教室

2021年8月23日
三重／放課後児童クラブさくらんぼ保育室
指導：山口香湖



学童に通う子どもたちが、夏休みにいけばなを体験。ほとんどの子が初めてだったが、熱心に取り組んでいた。

花で豊かな暮らし

2021年7月31日
千葉／フューチャーセンターならしの
今村草玉



「花で豊かな暮らし」をテーマに、市民がいけばなに触れる機会になるよう開催されたイベント。デモや歴史の講義も。

第67回 広島平和美術展

2021年7月29日～8月3日
広島県民文化センター 地下展示室
草月14名



8月6日に向けて開催された美術展。各作品に世界平和への願いが込められた。写真は森田寧子さんの作品。

第27回長崎原爆資料館献花

2021年8月7日～9日
長崎原爆資料館
長崎県支部



長崎原爆資料館の開館から始めた献花も今回で27回目。割竹や世界中から送られた千羽鶴を取り入れながらいけた。

ホテルでのフラワーク タイトル「世界の輪」

2021年8月1日～31日
北海道／京王プラザホテル札幌
北海道支部 草和会



東京オリンピックのマラソンと競歩が札幌で開催されたのを記念して制作。選手にエールを送った。

りふれな一と展

2021年8月10日～15日
静岡／クリエート浜松 ギャラリー35
中村真苑・中山緑香 他



油絵、映像などの作品80点が並ぶ中、児玉社中3名で木の造形を出品。「動物みたい」「動き出しそう」と好評だった。

受付を彩る

2021年8月8日～15日
宮崎／宮日会館受付
平澤沙香



「夏の思い出」と題し、自宅の庭で栽培したふうせんかずらやほおずきをガラス花器にいけた。

草月いけばな展「ホテルにいける!」～秋色のかぜ～

2021年9月18日～20日
埼玉／ホテルプリランテ武蔵野
草月42名



四級師範以上の会員が集い、「いけばなを創造する」をテーマに華展を開催。秋色のいけばなでホテルを彩った。

着物の展示会に

2021年9月16日～19日
福井(鯖江市)／まき乃呉服店
井上和萌



竹、かりん、グロリオサ、着色みつまた、蓮などで、着物の展示会にふさわしい華やかな作品を制作した。

宮城県芸術祭

2021年9月27日・28日
宮城／せんだいメディアテーク
丹野霞園



第58回宮城県芸術祭の彫刻展において、ケーブルなどを使ったインスタレーションが河北新報社賞を受賞した。

秋の遊山箱ランチin阿波十郎兵衛屋敷

2021年9月25日・26日
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
出村丹雅草門下



「お月見」をテーマに遊山箱弁当や阿波人形浄瑠璃を楽しむイベントを、出村丹雅草門下による花で彩った。

タイトル「時のなかで」

2021年10月1日～31日
北海道／京王プラザホテル札幌
草月12名



4流派、60名ほどで30年間ボランティアとして行っているフラワーク。今回は彫刻作品とのコラボしてのロビー装花を。

祝花

2021年10月1日～11日
高知／五台山 竹林寺
井上佐芳・常石春紅



正月花などでお世話になっている竹林寺の慶事に、みつまた、つるうめもどきなどで祝花を制作。参拝客に喜ばれた。

花信：今、世界が求める花がここに

2021年9月4日～
オーストラリア(メルボルン)からオンライン配信
新保道滄 他 写真作品：新保道滄



いけばなフェスティバルでオンライン花展を開催。片山健師範他、多数の方にリクエストに応じて制作していただいた。

加西市ふるさと芸能大会

2021年9月2日～4日
兵庫／加西市民会館
大橋義延 他



地区の老人クラブ会長として市民会館でのいけばな展示を提案。草月の華やかな大作は、大きな反響を呼んだ。

いぐさチャレンジャー

2021年9月6日～12日
北海道／JRタワーホテル日航札幌
大森千穂子フラワーアカデミー 井浦千文



熊本県産のいぐさの普及を目的とした企画「いぐさチャレンジャー」に出品。いぐさで様々な大きさの球体を表現した。

一夢の色 街の色ー 第62回 別府諸流いけばな展

2021年9月4日・5日
大分／ゆめタウン別府催事場
守田芳伸・星野百葉・堀内成穂 他



オープンな会場での恒例の花展を2年ぶりに開催。クラフトテーブルとパンパスグラスの作品が来場者の目を引いた。

オープン記念イベントにいける

2021年9月12日～30日
栃木(宇都宮市)／ベルテラシェ大谷
栃木県支部役員9名



自分達で制作した宇都宮名産の大谷石の花器を使用し、秋のいけばなで華やかに演出。来場者からも好評だった。

栄波いけばな教室発表会 花×器展

2021年9月10日～23日
めん房つつる石川 4店舗
栄波いけばな教室



コロナ禍ではあったが、皆さんの熱い思いから、3年ぶりに陶芸教室の方とのコラボ発表会を開催。学びの場となった。

「ハロウィン」に遊ぶ

2021年10月10日～31日
東京(杉並区)
与田玲子



新型コロナウイルスの変異株に世の中が振り回される中、モールを巻きつけた作品で、ハロウィンを楽ししく祝った。

市民文化祭・華道展

2021年10月9日・10日
千葉/きらり鎌ヶ谷市民会館
大場珠青 他



写真は大葉珠青さんの生徒6名による合作。6月に亡くなった生徒さんへの思いを込め、空に羽ばたく作品にした。

山形市芸文協総合展覧会

2021年10月13日～17日
山形美術館
山形地区役員一同



大作で秋の実り、躍動を表現。コロナ禍で、芸術で心をほぐし、「共に創る喜び、共に感動する集い」となった。

ねずがせき放課後子どもいけばな教室

2021年10月13日
山形(鶴岡市)/鼠ヶ関小学校
指導:草月6名



子どもが芸術文化に親しみ、豊かな心と感性と育むことを目的に開催した教室。真剣な眼差しと発想力に圧倒された。

献花式 熱田神宮よもぎ花道会

2021年10月15日
愛知(名古屋市)/熱田神宮神楽殿
稲垣秀敏



熱田神宮恒例の式典。献茶式と献花式が厳かに行われた。装束を身にまとい、白菊の一種いけでご奉仕した。

秋の各流いけばな展

2021年10月14日～18日
鹿児島山形屋文化ホール
草月8名



南国ならではのパイヤヤやそてつ、秋らしい実ものなどを使った思い思いの作品が並び、来場者の笑顔を誘った。

国際交流イベントにいける

2021年10月2日
新潟/アオーレ長岡 市民交流ホールA
高木双葵



外国人による日本語スピーチコンテスト会場にいける。制作過程も公開し、いけばなに興味を持ってもらおう機会に。

蓮の花の香り2021 マントヴァで日本

2021年10月1日～31日
イタリア/マントヴァ市パラッツォダルコ
ソンスーニ・マリオ 他1名



マントヴァ市のイベントで、歴史的な建築物であるパラッツォダルコの中庭に竹を使った作品をいけた。

「紅葉見ナイト」森林公園Harmony with Nature 2021

2021年10月5日～2022年1月14日
埼玉(比企郡)/国営武蔵丘陵森林公園
金田紫星グループ34名



廃棄前の公園内の間伐材を草月の造形で蘇らせるもの。14回目となる今回は8作品を展示した。

第3回周南華道連盟いけばな展

2021年10月2日・3日
山口/周南市文化会館3階展示室
草月6名



写真は周南華道連盟の会長を務める藤井苑幸さんによる迎え花。すずばらなどを使い、秋らしく、華やかな作品に。

伝統文化親子いけばな教室

2021年10月9日
栃木/下野市国分寺公民館
指導:刑部郊舟



文化庁事業の、次代を担う子どもたちが親とともに伝統・生活文化を体験・修得する「伝統文化親子教室」を実施した。

国文祭・みやざき

2021年10月8日～10日
宮崎(児湯郡)/たかしんホール
草月6名 写真作品:八反幸洲



「みんなで楽しむいけばなの祭典」に出席。地域の方々に参加できる体験教室も開催し、喜ばれた。

● 学校いけばな

大臣のご来校に迎え花

広島県立広島国泰寺高等学校
指導：高橋陽春

2021
7/7



文部科学大臣(当時)の萩生田光一氏
がご来校なさることになり、ひまわり、ふとなど夏らしい花材を使って、華道部で迎え花を制作しました。

入学式にいける

長野女子高等学校
指導：米澤好恵・山崎恵美子

2021
4/8



前任の指導者である坂口恭子先生より引き継いで2回目となる入学式の花です。「若々しい感じですね」と、お褒めの言葉をいただきました。

個性をいかして

東京都立八王子東高等学校
指導：山口霧香

2021
9/6
~10



コロナ禍で文化祭に合作をすることはできませんでしたが、個人作で各々の個性がいかせるように工夫しました。それぞれ満足のいく作品ができました。

コロナ禍の文化祭

石川県立金沢西高等学校
指導：森光和

2021
8/31
~9/1



コロナ禍での文化祭。2年生は花型法、3年生は自由花を制作することとし、1年生の入学式につながるよう期待を込めていけました。

たくさん入部してほしいな!

理科室でいけばな指導

東京/足立区立梅島第一小学校
指導：小林泉華

2021
10/30



いけばなって楽しい!

理科室を使って、第3応用立真型・盛花を指導。子どもたちの顔がパツと明るくなりました。学校の先生いわく「いけばなのクラスは一番人気です」とのことです。

1日限りの文化祭

福岡/博多女子高等学校
指導：片山紅早

2021
10/28



コロナ禍で華道部の活動もままならない状況でしたが、緊急事態宣言解除に伴い1日限りの文化祭が開催。3年生を中心に校内に作品を飾りました。

子どもたちに、いけばなを通して自由な表現を伝える「学校いけばな」の活動をサポートします!

草月流学校いけばな 登録募集のお知らせ

● 登録の対象

国内にある幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校などで草月いけばなを指導する草月指導者連盟会員。※授業、クラブなど定期的な活動の他、年数回の体験教室なども対象となります。

● 登録方法

専用登録用紙にご記入の上、ファックスまたは返信用封筒にてご送付ください(「指導有」でご登録の皆さまには『草』へ専用用紙を随時同封しております。専用登録用紙がない場合は、会員サービス部までお問い合わせください)。

● 登録の特典とサポート

- ①花器、花ばさみ、剣山などの短期レンタルが可能です。貸出期間：最長10日間(送料はご負担ください)。使用日の3ヶ月前までにお申込みください。
- ②花器、花ばさみ、剣山などご購入の際は、特別割引料金でご購入いただけます。オフィシャルショップ「蘭」の限定商品が対象です。
- ③本部いけばな展チケット、草月カレンダーを贈呈します。カレンダーは指導校1校につき1本を贈呈。カレンダー、チケットは指導者宛に郵送します。
- ④クラブ活動等の指導修了時に、家元からメッセージカードを進呈します。体験教室等、単発教室の場合は事務局より修了証を発行します。
- ⑤草月会本部(東京・赤坂)にて、指導されている学校の修学旅行生の研修を優先的に受け入れます。ご希望の際は、お問い合わせください。

● 登録にあたっての注意事項

- ①登録の際は必ず学校にお知らせください。※「学校いけばな」は指導者の登録制度です。
- ②登録は無料です。

- ③ご登録いただいた場合、指導者より年度末に1年間の年度活動報告書を提出していただきます。
- ④毎年度、更新手続きが必要です。
- ⑤以下のものは事前申込みが必要です。花器等レンタル：3ヶ月前/メッセージカード：2ヶ月前/修学旅行生研修：3ヶ月前
- ⑥花器等のレンタルは貸出状況によりご希望に添えない場合がありますので、予めご了承ください。

● 個人情報について

皆さまからいただいた情報は厳重に管理し、下記の目的に使用させていただきます。

- 1) 学校いけばなに関する郵便物の発送、連絡
- 2) 学校いけばな関連事業を行う際の連絡等
- 3) 草月流のいけばなに関する事業を行う際の連絡等

● 登録に関するお問い合わせ

[会員サービス部]
TEL: 03-3408-1120 / FAX: 03-3405-4947
E-mail: members@sogetsu.or.jp
〒107-8505 東京都港区赤坂 7-2-21
一般財団法人草月会 会員サービス部
「学校いけばな」係



体験教室・単発教室の場合は事務局より修了証を発行

クラブ活動等の指導修了時に贈られる、家元メッセージカード

「学校いけばな」の活動を、お知らせください!

活動報告(日時・場所・指導者氏名・内容)とともに、活動の様子の写真(L判程度の大きさ)をお送りください。メールでも受け付けております。

※原則として写真のご返却はいたしません。貴重な資料などでご返却を希望する場合は、返送分の切手を添えて、「返却希望」の旨を目立つようにお書きください。※投稿は随時可能ですが、掲載は開催日順、受付順となります。

〒107-8505 東京都港区赤坂 7-2-21
草月文化事業株式会社
出版部・編集制作室
「学校いけばな活動投稿」係
E-mail: info@sogetsu.or.jp

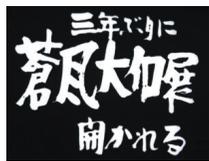
オンラインで楽しむ 草月のいけばな



【特別企画】映像で知る草月

動画配信サイトにて、「草月ってなんだろう？」特別記録動画を配信中！
草月の歴史を振り返る映像3本を、動画配信サイトにて配信中です！

草月指導者連盟
会員限定

配信期間	内容	料金
6月26日(日)まで	   <p>①「アトリエの蒼風」 ②「蒼風大個展」 ③「創る 勅使河原霞個展」</p>	各1,100円(税込)

【対象者】草月指導者連盟会員

【視聴方法】メンバーズサイト内にある、動画配信サイトよりご購入ください。

お問い合わせ [事業課] TEL: 03-3408-1156 / FAX: 03-3405-4947 / E-mail: kikaku@sogetsu.or.jp

【サブスクリプション(定額見放題)の動画配信サービス】

anytime SOGETSU エンタイム・草月

草月のエッセンスが詰まったテキストに掲載されている各テーマより、
草月 WEST で披露された本部講師によるデモを、何度でも必要な時にご覧いただくことができます。

プラン	内容	料金
サブスクリプションプラン ベーシック	月額定額で70本以上の動画が見放題となる 大変お得なプランです。	月額 [※] 2,200円(税込) ※開始日より起算
1本から購入プラン	購入した動画は30日間視聴いただけます。	1本 550円(税込)～

【視聴方法】草月流ホームページの「草月を習う」メニューより、または右のQRコードより「anytime SOGETSU」のWEBサイトへアクセスしてください。



お問い合わせ [草月 WEST] TEL: 075-366-3647 / FAX: 075-366-3648 / E-mail: west@sogetsu.or.jp

どなたでも
ご受講可能

待望の新プログラム！

WEB家元講習会

[日本語版・英語版] 7月1日(金) 10時より配信開始！

WEB家元講習会は今まで4回(プログラム1～3、特別プログラム)にわたって配信してまいりました。
今回の第5弾は、「夏の花」をテーマに、家元と2名の本部講師が様々なアイデアで計7作を制作しています。
それぞれの想いや工夫を凝らした夏ならではの花を、この機会にぜひお楽しみください。

プログラム4 「夏の花」

講師



家元



竹中麗湖



日向洋一

配信期間	テーマ(内容)	料金
7月1日(金)～ 8月31日(水)	オープニングトーク/夏の女王 ダリア/器はいけられてこそ生きてくる。/ エコと希望の光/室礼 豊かな生活の彩り/夏への扉 緑のハーモニー /夏への扉 涼に憩う/夏への扉 色彩の戯れ/クロージングトーク	5,000円 (税込)

【受講対象者】草月流を習っている方ならどなたでも。

今までのプログラムは、草月指導者連盟会員の方限定で配信しておりましたが、本プログラムは、どなたでもご受講いただけます。ぜひご社中の方やお弟子さんにもご紹介ください！ ※動画はご購入いただいたご本人のみでの視聴をお願いしております。動画の共有はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

【視聴方法】2通りございます。

①従来のメンバーズサイトからログイン

※お手持ちのスタートガイド、または草月メンバーズサイトをご覧ください。

②草月流ホームページから新たにログイン NEW

草月流ホームページより直接動画配信サイトに入れます。

- ・初めての方は、無料会員登録からお願いします。
- ・以前ご登録いただいた方は、会員登録の必要はございません。

ログインして、動画をレンタル視聴いただけます。

※お支払いは、カード決済の他、銀行振込、草月会館会員サービス部、草月WEST 窓口でもできます。

カード決済以外の場合は入金処理まで1週間程かかることもありますので、あらかじめご了承ください。

● サポートします! ご連絡ください。

視聴方法がわからない方は、事業課スタッフがサポートします。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ [事業課] TEL: 03-3408-1156 / FAX: 03-3405-4947 / E-mail: kikaku@sogetsu.or.jp



葉の色、葉の形



いたやかえでの葉の質感や色合いは、とても繊細で美しいもの。

力強い藤づると対比させることで、それぞれの魅力を引き出しました。

The texture and colors of the painted maple leaves are very delicate and beautiful.

By contrasting them with the powerful wisteria vine, I was able to bring out their individual charms.

花材：藤づる、いたやかえで、エレムルス、けむりの木 花器：陶器水盤 サイズ：161×131×132cm

Materials: Wisteria vine, Maple(Painted maple), Foxtail lily, Smoke tree Vessel: Ceramic suiban



花をあえて使わないことで、八重桜の枝の精悍さや、葉のやさしい雰囲気をいかしました。

かちっとした真四角の花器にいけることで、それらの動きがより映えます。丸いアリウム・ギガンチウムをアクセントに。

By deciding not to use flowering cherry blossoms, the sharpness of the branches and the gentle vibe of the leaves stood out. Their movements are enhanced even more by arranging them in a structured square vase.

I added roundheaded alliums as a finishing touch.

花材：八重桜、アリウム・ギガンチウム 花器：陶器花器 サイズ：66×89×45cm

Materials: Flowering cherry, Allium giganteum Vessel: Ceramic vase



ざくろの赤い花は、密集した緑の葉の中に咲くことから「紅一点」の由来と言われており、実の時とはまた違った生々しさと面白さがあります。

今にも動き出しそうな個性的な器を主役に、互いの躍動感を際立たせました。

The red flowers of the pomegranate are said to be the origin of the Japanese term "Kouitten" (literally means one red spot) because they bloom amidst the dense green foliage, giving it an outstanding vivid and interesting feature rather than when they are fruits. I put the unique vase, which looks as if it could start moving at any moment, at the center stage, to highlight each other's dynamism.

花材：ざくろ、てっせん 花器：陶器花器（下村順子） サイズ：101×100×103cm
Materials: Pomegranate, Leather flower Vessel: Ceramic vase



びわの葉は細長く、広がるように繁るさまが、独特の存在感を放ちます。

実ではなく、「葉をいける」ことに注力した作品です。

The leaves of loquat are long and slender, and their spreading growth shows a unique presence. This work focused on "arranging leaves" rather than berries.

花材：びわ、けむりの木 花器：陶器花器（大樋年朗） サイズ：67×118×80cm
Materials: Loquat, Smoke tree Vessel: Ceramic vase

日本橋高島屋での草月いけばな展が、ついに開催！

お待たせいたしました。約3年半ぶりに、日本橋高島屋でのいけばな展が戻ってきます！
初代蒼風の時代より続く伝統ある草月いけばな展。気持ちも新たに、皆さまのご出品を心よりお待ちしております。
詳細は、応募要項およびホームページにて発表いたします。ぜひ楽しみに！

第103回草月いけばな展
2022年10月19日(水)～10月24日(月)

会場：日本橋高島屋 S.C. 本館8階 催会場
監修：勅使河原茜家元
主催：一般財団法人草月会

- 出品説明会：新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催しません。
ご希望の方に「応募要項」をお送りするほか、ホームページでも詳細をご確認いただけます。
 - 応募要項の入手方法：ご希望の方に、郵送・FAX・メールいずれかの方法にてお送りします。
【会員番号・名前・ご希望の送付方法】を事業課までお知らせください。
※送付予定日以降は、草月会館事業課でも配布しています。メンバーズサイトにも掲載します。
 - 応募方法：応募要項をご請求の上、要項に沿ってお申込みください（6月21日以降順次郵送予定）
花席をはじめとした詳細は、応募要項及びホームページ（メンバーズサイト）でご案内します。
ご興味ある方は、ぜひ資料をご請求ください。
 - お申込受付開始：6月29日(水) 10:00～ 一斉募集開始
締切：7月13日(水)
- ※上記日時前にお申込みいただきましても受け付けいたしかねます。
※お申込みは先着順にて受け付けます。なお、お申込み同着多数の場合は、抽選とさせていただきます。
※郵送の場合は、到着日を同着扱いとし、FAXやメールでのお申込みは到着した順とさせていただきます。
※ご希望の会期・花席が満席の場合、他会期・他花席でのご出品をご案内、またはお断りすることもございますので、予めご了承ください。
※会期や内容は変わることがあります。また、天災及びその他不可抗力による事由により、草月いけばな展の開催を延期・中止する場合がございますので予めご了承ください。
※海外在住の会員の皆さまには、遠方からもご参加いただける企画を検討しております。（例：写真作品の出品等）
詳細は次号でお知らせいたします。

【お問い合わせ】草月会事業部事業課
TEL：03-3408-1156 / FAX：03-3405-4947 / E-mail：kikaku@sogetsu.or.jp



Photo: Kozo Sekiya

強く、美しく

日本いけばな芸術九州展
4月13日～18日
鶴屋東館7階鶴屋ホール

「強く、美しく。九州で夢ひらく。」をテーマに、日本いけばな芸術協会の創立55周年を記念した「日本いけばな芸術九州展」が開催された。熊本での開催は16年ぶりとなる。初日には開会式があり、テークアウトで開催を祝った。展覧会には九州地区の協会会員を中心に26の流派が出品、前期と後期で計218の作品が展示された。草月流からは家元をはじめ73名の作家が出品。会場を訪れた人々は、力強く春の息吹を感じる作品群に大いに癒やされた。



家元作品。しゃくなげ、つるそけい、つつじ、竹を使用。

爛漫の春

勅使河原茜家元による
いけばなインスタレーション
3月30日～4月5日
日本橋高島屋S.C.

春恒例の、勅使河原茜家元によるいけばなインスタレーションが日本橋高島屋に展示された。れんぎょう、しゃくやく、やまぼうしといった春の花々は、会期を通じて徐々に開花。変化してゆく表情豊かな花木とともに、一足早く爛漫の春を届けた。



割竹のシャワーが印象的な家元作品。最終日にはすべての花が満開を迎えた。

空間をいかして

草月WEST
家元教室いけばな展
4月30日・5月1日
草月WEST

草月WESTの家元教室で学ぶ、草月流学習者約20名によるいけばな展が開催された。台上がりや床上がりの作品をはじめ、掛け花、吊り花など、空間をいかして展示された。今年の夏でオーブンから2年、研鑽を積んだ成果が作品に表れた展覧会となった。



草月WEST家元教室いけばな展の展覧会風景。写真作品も投影された。

NHK カルチャー文化講座に、家元が登壇します



家元ライブパフォーマンス「花は自分らしく、自由にいける」を行います。この機会にぜひご受講ください。

受講方法 ① 京都で受講
【日時】2022年6月5日(日) 14:00～15:30
【会場】NHK文化センター京都教室 (〒600-8006 京都市下京区四条通柳馬場西入ル立売中之町99 四条SETビル3階)
【受講料】NHK文化センター会員 3,663円(税込)、一般 4,356円(税込)

受講方法 ② オンラインで受講
パソコン・スマホなどで、どなたでも全国から受講可能！
【日時】2022年6月5日(日) 14:00～15:30
【受講料】3,300円(税込)
【プラットフォーム】Zoom ウェビナー

【お申込み・お問い合わせ】
NHKカルチャー京都教室 TEL：075-254-8701

入会金・再入会金が不要の講座も。この機会に、ぜひご受講ください!

※日程、講師は変更になることがあります。また、新型コロナウイルス感染症の影響や、天災及びその他不可抗力による事由により、開講を延期または中止する可能性があります。予めご了承ください。開講予定や申込受付等に変更が生じた場合は随時告知いたしますので、草月流ホームページをご確認いただくか、本部教室または草月WESTまでお問合わせください。

家元教室

資格を問わず、どなたでもご参加いただけるいけばな教室です。ワンレッスン受講することもできます。

再入会金が不要

7月	火曜	5日	中村草山	12日	加藤久美子	19日	隅出美泉
	木曜	7日	篠崎洵雅	14日	岡崎 忍	21日	坂口水恵
8月	火曜	2日	隅出美泉	9日	坂口水恵		
	木曜	4日	加藤久美子				

●原則として6日間(8月は3日間)、第1・2・3火曜と木曜 ●10時30分/14時/18時(各日3回開講)
●入会金:11,000円 ●月謝:12,040円(月3回分・花材費別) ※証書申請可能。 ※再入会金無料。再入会をご希望の方は事前にご連絡ください。 ※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可(6,440円・花材費込み/都度払い)。

男子専科

初心者からベテランまで、男性限定のいけばな教室。いけばな作家や男性指導者の育成をめざすクラス。随時受付。

再入会金が不要

7月	1日(金)	岩渕幸霞	9月	7日(水)	澤田晃映
	13日(水)	西山光沙		16日(金)	西山光沙
	22日(金)	澤田晃映		30日(金)	岩渕幸霞

●開催日は水曜1回、金曜2回 ●18時(受付:17時30分~19時30分) ●入会金:11,000円 ●月謝:12,040円(月3回分・花材費別) ※家元教室・家元研究科への振替ができます。 ※証書申請可能。 ※再入会金無料。再入会をご希望の方は事前にご連絡ください。 ※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可(6,440円・花材費込み/都度払い)。
※8月は休講となります。

インターナショナルクラス

外国の方々を対象としたクラスです。授業は英語で行われます。

7月	4日	細野葉霞	9月	5日	坂口水恵
	11日	福島光加		12日	高木水染
	25日	石川己青		26日	細野葉霞

●毎週月曜日 ●10時30分~12時30分 ●受講料:5,600円/1回(花材費込み。月4回目以降は5,240円)
※証書申請可能。 ※8月・祝日は休講となります。

公開講座

普段のお稽古ではなかなかチャレンジできない内容で創造性を大きく伸ばすチャンス! 経験豊富な講師の講義で、知識と技の引き出しがさらに広がります。

受講日	テーマ	講師	内容
7月9日(土)	意外ないけ方がある 意外な題材を忘れてい ー草月五十則よりー	 関田育圓	草月五十則の深いことばから、作品への発想・発見・可能性を探ります。見慣れた植物も、器も既成概念からはなれて、改めて見つめ直してみましょう。生の植物だけ、又、枯れものを加えて、時代と共に、新鮮な表現であなたの今を「造形」しましょう。
8月3日(水)	葉ものと真鍮でいけよう	 田淵章流	きれいに光る真鍮を、トントンとカナヅチで打ち、彩色してマットなものに仕上げます。カナヅチの打ち方や彩色する色を変えることにより、いろいろな雰囲気仕上がりになります。その変化を楽しみましょう。最後は、自分で変化させた真鍮板にダイナミックに葉ものを加え、造形してみましょう。

●授業時間:10時30分~16時 ●受講料:12,970円(材料費・昼食代込み)/入会金なし
●申込資格:草指連会員 ●定員:40名 ●募集:随時受付中。郵便振替または会員サービス部窓口でお申込みください。
[郵便振替口座] 口座番号:00180-6-119808 / 加入者名:(一財)草月会 教室運営課 ※払込取扱票の通信欄に(お持ちの方は)メールアドレスをご記入ください。 ●申込締切:開催日の1週間前(ただし定員になり次第締め切ります) ※お申込み後のキャンセル・ご返金はいたしかねます。 ※お申込み後でも、翌月以降(年度内)に振替受講が可能です。ご希望の方は、受講日の10日前までにご連絡ください。それ以降のご連絡の場合、実費(材料費および昼食代)をいただきます。

家元研究科

毎回テーマが設けられ、いけばなをさらに深く追究することを目標とします。感性と技術を磨く最高の勉強の場です。AT賞選考対象クラス。

入会金・再入会金が不要

	金	土	月	テーマ	講師
	14時/18時	10時30分/14時	10時30分/14時		
7月	8日	9日	11日	花器からの発想	家元
9月	2日	3日	5日	奇をてらう。 それは己の未熟さの表われか。	日向洋一

●申込方法:新入会をご希望の方は、TEL・FAX・E-mailで事前にご連絡ください。毎月の受講は、日程・時間をご確認の上、ご来館ください。 ●受講料:12,200円(花材費込み) ※受講日に草指連会員証をご持参ください。 ※8月は休講となります。

花と人間のリアルな出会いと交流の中にこそ、
いけばなの真髄は存在する。

—— 勅使河原 茜 日本女性新聞(2020.09.15)より

家元研究科ではあなたの作品を家元が直接指導します。
草指連会員の方であればどなたでもご参加可能です。
多くの作品や人との素敵な出会いを求め、いけばなの真髄へ自由に大胆に飛び込んでみましょう!



家元のデモを間近で見ることができるチャンス。リアルな出会いを大切に作る家元らしく、和やかな雰囲気の講座です。

●第10回AT賞展が開催されます! 詳しくは下記へ。

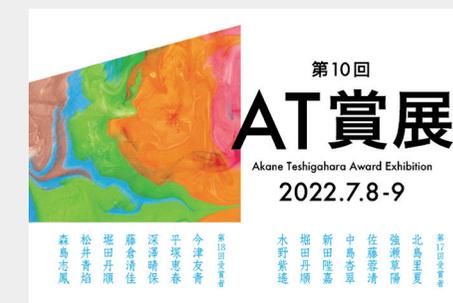
第10回AT賞展

2002年に茜家元の家元継承を記念し、家元のイニシャルより命名し創設された「AT賞」。家元研究科の在籍者の中から、最終選考を経た13名の受賞者が研鑽の成果を発表します。

【日時】7月8日(金)・9日(土) 10時~17時
【会場】草月会館1階プラザ ※入場無料
【出品者】第17回・第18回AT賞受賞者

お問合わせ [教室運営課]

TEL:03-3408-1209 / FAX:03-3405-4947 / E-mail:kyoshitsu@sogetsu.or.jp



新規募集! 『創造の扉』

創造力を刺激する、待望の新講座! 早めのお申し込みをお勧めします。

受講日	講師	内容
9月から全6回 原則として火曜日 2022年 9/6、11/15、12/16 2023年2/7、3/14 ※6回目日程未定	 川名哲紀	『創造の扉』では、個々の“創造性”を掘り起こし、社会的な場へ展開してゆく後押しをして参ります。 必要に応じてイベント観覧や講師が提案する素材の体験、また各自の活動や作品についての意見交換を通じて、“創造性”や“美意識”を磨きます。 川名哲紀師範の指導のもと、受講生同士の個性を出し合い、一緒に人の心を刺激し躍動させる表現者を目指しましょう。 今こそ創造の扉を開放しよう。

●授業時間：11時～16時 ●受講料：79,200円 ●申込資格：草指連会員 ●定員：30名（定員になり次第締め切ります） ●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどに、①名前 ②草指連会員番号 ③住所 ④電話番号 ⑤（お持ちの方は）メールアドレスをご記入の上、受講希望の旨を教室運営課までお知らせください。 ●申込締切：7月29日（金）※授業は講師講義と個人作品 / 個人活動の発表が基本となります。 ※下記の画像は本授業を受講し、公募展や個展など社会的な場で活動した受講生の作品です。

「草月のいけばな」とは
単に作品のことをいうのではない。
社会のただ中へ出て活動する
総体のことをいうのだ。



Photo: Masahiro Ikarashi



受講生の作品

— 勅使河原 宏
「展覧会のいけばな 1993年版」より

新規募集! 陶芸コース

自作花器を作りたい方、ものづくりが大好きな方大歓迎

植物が持っている美しさだけに頼らない造形力を身に付けるため、1981年に宏前家元の提唱で開講した「造形科教室」。幅広い角度から「創造する精神」を学ぶ本講座は、草月の大きな特色となっています。陶芸コースが2022年度受講生を募集! 草月流を学んでいる方ならどなたでも受講できます。

受講日	講師	内容
月2回 原則 火曜日、水曜日 ①6/21・22 ②7/19・20 ③8/23・24 ④9/27・28 ⑤11/8・9 ⑥12/20・21 ⑦2023年1/24・25 ⑧2/14・15	 加藤清之  飛松弘隆	土と向き合い、思いのままにその人の内にあるものを土で表現していきます。焼き物は初めて、という方も安心してご参加ください。 この講座は、長年通いながら造形力を高め、そこで得た造形感覚をまたいけばなに活かすことで、より大きな可能性に繋げていくことを目的にしています。 自分自身の作風を獲得した方も数多くおり、花器に限らず、型にとらわれないユニークな陶オブジェ、茶碗なども制作できます。 長年 陶芸コースの講師を務められた加藤清之先生監修のもと、これまで加藤先生のお子で、共に陶芸教室を支えてこられた飛松弘隆先生が本年度の講師を務めます。

●授業時間：11時～16時 ●受講料：年間8回コース 101,620円、年間5回コース 71,240円（※焼成費、送料別途）、体験レッスン 15,000円（未経験者対象、1回のみ、焼成費と送料込み） ●申込資格：草月流学習者（入門の方からご受講いただけます） ●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどに、①名前 ②草指連会員番号 ③住所 ④電話番号 ⑤（お持ちの方は）メールアドレスをご記入の上、受講希望の旨を教室運営課までお知らせください。 ●申込締切：随時お申し込みいただけます。

家元研究科

7月は家元の担当です!

講師からはテーマは出ません。受講者自らが考え、自由に植物表現を探究します。新入会・再入会大歓迎。AT 賞選考対象クラス。
4月から講師が一部変更になりました。

入会金・
再入会金が不要

	金曜	土曜	探究「私の花」 私はなぜ花をいけるのか? 私が目指す植物表現とは? 私が追及したい素材は? 自由花って何? 自分がすべきことは何かを受講者自ら考え、草月らしく自由に楽しく新しく、植物表現を探究しましょう。それを積み重ねてゆくことでそれぞれの「私の花」がより輝きます。講師が今の「私の花」を受講者に披露するデモンストレーションもあります!!	講師
	14時30分	10時30分 / 14時30分		
7月	15日	16日		家元
8月	19日	20日		片山 健
9月	16日	17日		竹中麗湖

●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。 ●受講料（家元）：12,200円（花材費込み） / （本部講師）：10,100円（花材費込み） ※授業開始の20分前から受付を開始します。

家元教室

毎回テキストのテーマからの2作、講師のデモンストレーションがあります。たっぷり勉強できる充実の2時間。土曜日14時30分からの家元教室は、オンラインでも受講できます! 4月から講師が一部変更になりました。

再入会金が不要

7月	金曜	1日	岡本青珠	8日	中田和子	22日	石川己青
	土曜	2日	〃	9日	〃	23日	〃
8月	金曜	5日	五十野雅峰	26日	澤田晃映	9月2日	岡本青珠
	土曜	6日	〃	27日	〃	9月3日	〃

●月3回 金曜・土曜 ●金曜（14時30分 / 18時30分）、土曜（10時30分 / 14時30分） ●入会金：11,000円 ●月謝：11,000円（月3回分・花材費別） ●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。 ※証書申請可能。 ※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可能（4,500円・花材費1,700円 / 都度払い）。 ※見学可能。

土曜日14時30分からの家元教室は、オンラインでも受講できます!

公開講座

ご希望のクラスを1回ごとにお申込みできる魅力ある講座です。講師の個性がいかされたテーマにチャレンジできます。ぜひご受講ください。

受講日	テーマ	講師	内容
8月23日（火）	ふんわりフィルター の徹底追求	 平石丹珠萌	換気扇フィルターを使用して、白ベースにデザインワイヤー（自遊自在）をプラスして制作します。 植物で表現する瑞々しさや情緒性に頼ることなく、異質素材の特徴を活かし、明快なフォルムを目指し、明るい雰囲気の商品が作れるといいでしょう。

●授業時間：13時～16時 ●受講料：4,400円（教材費別） ●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。 ●申込締切：開催日の前々週の週末

草月 WEST 秋の特別野外セミナー

秋の京都で竹の合作に挑戦！
草月学習者であれば、どなたでも参加できます！

- 【日時】 2022年10月2日(日) 10時～17時
 【会場】 梅小路公園／京都市下京区（JR梅小路京都西駅目の前） ※草月 WEST から徒歩数分です。
 【技術指導】 草月アトリエ
 【参加料】 15,000円（教材費・昼食込み）
 【内容】 秋空の下で竹のグループ合作を制作しましょう！ ドリルや工具の使い方、重量バランスの取り方など、小品とは全く違う制作の手順を学びます！ 市民の憩いの場である公園を訪れる多くのお客様に、皆さまの作品を見ていただく機会となります！

- 申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、①名前 ②草指連会員番号（お持ちの方）③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス ⑥門下別（または所属教室名）をご記入の上、草月 WEST までお送りください。●申込締切：9月10日（土）
 ●参加資格 草月学習者（初心者からベテランまでどなたでも受講可）
 ※本講座は、[公益財団法人京都市都市緑化協会]が主催する「梅小路公園グリーンフェア 2022 秋」事業の一環として出展し、同協会の協力を得ながら開講します。
 ※作品の撤去は後日、運営側で行います。



制作場所の一例

アトリエスタッフが丁寧にお教えします！（写真はイメージです）

お気軽「草月 WEST 体験」参加者大募集！

グループに草指連会員が1名いれば、
どなたでも参加 OK！

草月 WEST を気軽に体験してみませんか？ 京都観光と一緒に草月 WEST にも足を伸ばしてみましょう。
お友達や社中の方を誘って気軽にご参加ください。近くの観光スポットもご紹介します。
もちろん授業のない日に、ふらっと見学も大歓迎です！

- 【参加料】 3,000円 / 1名（花材費込み）
 【開催日】 日曜日（授業やイベントの開催が無い日）
 ※要予約 / 希望日 2 週前の日曜日までにお申し込みください。
 【開催時間】 ① AM コース：10 時 30 分～ ② PM コース：13 時～（各 1 時間～1.5 時間）
 【最少催行人数】 3 名（草月指導者連盟会員が 1 名いれば、グループ内は会員外の方も参加可）

当日は……

- ①花材や道具は草月 WEST にて準備しております。
当日は手ぶらでお越しいただけます。
②花と花器を選び、自由にお花をいけます。
いけばなガイドが皆さまをサポートいたします。
③教室内のお好きな場所で作品を撮影し、SNS にアップ！



- 申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、①希望日・コース②名前（参加者全員分） / （以下は代表者のみ）
 ③草指連会員番号④住所⑤電話番号⑥メールアドレス⑦門下別をご記入の上、草月 WEST までお送りください。※事前にお電話、E-mailなどで希望日をご確認ください。●申込締切：希望日 2 週前の日曜日

プロフェッショナルクラス

受講日	講師・技術指導	内容
原則として火曜日（年4回） 7月5日、8月30日、10月25日、 2023年3月7日 ※前号で9月6日と告知いたしましたが、 8月30日に変更となりました。	市村富美夫（染色家） 清水六兵衛（陶芸家） 日向洋一 草月アトリエ	長年続いている名物クラスです。様々な分野からの豪華講師によるパワー溢れるクラスに参加してみませんか？ 恒例になった、草月陶房での授業も予定しております。今回も若干名募集します。

- 授業時間：10時30分～16時 ●受講料：55,020円（4回分前納、昼食代込み。教材費はその都度実費） ●受講資格：総合補修セミナーPart2修了者、または草指連会員で草月WEST在籍者（※どのクラスでも可） ●定員：20名 ●申込締切：6月20日（月）

いけばな草月流がお届けする、アートと文化のオープンセミナー

SOGETSU X 第4弾

いけばなの可能性は無限です。そしていけばなも社会のなかで成立しています。
さまざまなジャンルと草月流いけばながX（クロス）して新しいものが生まれます。コラボレーション相手に制限はありません。
アートや工芸、そしてさまざまな面白いことをしている人・異業種・社会との交流企画で、
化学反応のような新しい発見・体験をしましょう。

9月開講 自分の視点を知ることから — 京町家で展覧会 —

作品を作ることは、自分自身を表現することです。
常に自分を俯瞰すること。そして、よりたくさんの方の発見をし、自分をプロデュースしてみましょう。
「貴方の作品は何故この“場”にあるのか」「何故このような作品なのか」。
作品のストーリーを作り上げることで、あなた自身を演出する方法を学びます。
本講座では、京都の宮川町にある町家（雨柳デザイン事務所）にて、ミニ展覧会を開催します。

<講師略歴>

佐々木まなび（雨柳デザイン事務所代表、裏具 HAURA Kyoto Japan アートディレクター）

日本人独自の美意識「気配、間、間」に魅かれ、それらを意識したデザインを追求。茶道、美術館、舞台、装丁をはじめ大手菓子メーカー顧問、ショップの空間ディレクションも手がける。

1986年 デザイン事務所を開設。1997～2017年 書家石川九楊氏に師事。
2005年 株式会社グッドマンに取締役として就任。プロジェクトとして京都宮川町にオリジナルの紙文具「裏具」「URAGU HATCH」「URAGNO」をオープン。2020年京都八坂通に初ユニット「HAURA Kyoto Japan」をオープン。2021年『雨を、読む』を芸術新聞社より出版。株式会社グッドマンを辞任後「雨柳デザイン事務所」を開設。ほか、BS「極上の京都」、NHK コア京都海外版や婦人画報はじめ様々な分野で出演、掲載される。



展覧会を行う雨柳デザイン事務所



※詳細は次号にて発表いたします。

フラワーク

とらや赤坂本店	6月	6月27日まで	樋口翠翔	赤坂見附
	7月	6月28日～7月25日	大川礎賀	
	8月	7月26日～8月25日	河村仙蘭	
ザ・キャピトルホテル東急	常設		杉岡宏美	溜池山王・国会議事堂前
赤坂エクセルホテル東急	常設		飯岡湖武孜	赤坂見附
ホテルニューオータニ東京(ロビー階)	6月1日～7月8日		澤田晃映	赤坂見附・永田町・麹町
	7月8日～8月4日		久保島一超	
	8月4日～9月8日		日向洋一	
ホテルニューオータニ大阪(ロビー階)	6月2日～7月8日		澤田晃映	大阪城公園・大阪ビジネスパーク
横浜ベイホテル東急(B1階神殿口)	常設		深澤隆行	みなとみらい・桜木町
ラフォーレ原宿 2.5階 GR8	常設		座・草月	明治神宮前・原宿
ホテルエミオン京都(笹屋伊織 別邸3階ロビー)	常設		高嶺一染	梅小路京都西
草月会館日本間 開場時間:初日は午後から、最終日は午前中まで	6月3日まで		岩本知星	青山一丁目
	6月6日～19日		佐々木紅葉	
	6月20日～7月1日		加藤久美子	
	7月4日～15日		丹野霞園	
	8月1日～12日		田淵章流	

【草月コレクションがご覧いただけます】

●「ミロ展—日本を夢みて」にてジュアン・ミロ作品4点が展示されます。

7月3日(日)まで 愛知県美術館 問: ☎052-971-5511

7月16日(土)～9月4日(日) 富山県美術館 問: ☎076-431-2711

【草月会館土・日・祝日特別開館日】草月会館の特別開館日は、以下の通りです。その他の土・日・祝日は、草月会館は休館しております。6月11日(土)、7月9日(土)、9月3日(土)、10月15日(土) ※草月WESTは月曜休み、祝日はオープンし翌営業日を休みとします。

このページに掲載されているイベントは内容が変更になる場合がございます。本部にお届け済みのイベントが中止または延期となった場合は、広報部までご報告くださいますようお願い申し上げます。[広報部] TEL:03-3408-1158 / FAX:03-3405-4947 / E-mail:pr@sogetsu.or.jp

アトリエスタッフ募集!

家元を支える、草月の未来を創る、
創流100周年に向けて新たな人材を募集します。

【募集要項】

業務内容: 家元の制作アシスタント、国内外でのいけばな活動、ホテルやイベントでのいけこみ等

募集条件: 草月入門者(師範資格不問)、
要普通自動車運転免許

雇用形態: 正社員(試用期間3ヶ月)

※ご興味のある方は、履歴書をお送りください。

【ご応募・お問合わせ】草月文化事業株式会社 管理業務部
〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-21

TEL: 03-3408-9116 / E-mail: y-sugawara@sogetsu.com



先輩が技術指導をする研修も。

年間行事予定

6月3日(金)	財団理事会(草月会館/11時～)
6月5日(日)	講座 草月流家元 ライブパフォーマンス「花は自分らしく、自由にいける」(NHK文化センター京都教室) 講師:家元 ※オンライン受講あり 問:NHKカルチャー京都教室 ☎075-254-8701 ※詳しくはP.24をご覧ください。
6月8日(水)～26日(日) ※期間中断的に開催	草月いけばな展(草月会館 2階談話室) ※詳しくは表紙裏をご覧ください
6月23日(木)	財団評議員会(草月会館/11時～)
7月1日(金)～8月31日(水)	WEB家元講習会プログラム4「夏の花」配信期間
7月8日(金)・9日(土)	第10回AT賞展(草月プラザ)
8月13日(土)～21日(日)	草月会館夏期休暇
10月13日(木)	財団理事会
10月19日(水)～24日(月) ※予定	第103回草月いけばな展(日本橋高島屋S.C.)

本部主催支部研究会・講習会

埼玉県支部	6月4日(土)	研究会 埼玉会館	岡本和梨	☎048-886-4011
北海道支部	6月26日(日)	研究会 札幌市教育文化会館 3階研修室305 ※家元指導	池田好佳	☎011-511-9506
長崎県支部	7月3日(日)	研究会 長崎ブリックホール ギャラリー	小島星女	☎095-827-7728
広島県支部	7月17日(日)	研究会 広島市南区民文化センター 3階大会議室	山上晶絵	☎084-943-5676
大阪支部	7月17日(日)	研究会 天王寺区民センター	島田真美楓	☎06-6370-7331
熊本県支部	7月17日(日)	講習会 くまもと県民交流館パレオ 9階第1会議室	佐分利彩苑	☎096-381-2841
佐賀県支部	7月24日(日)	講習会 ほほえみ館	田中樹音	☎0952-98-2091
神奈川県支部	8月7日(日)	講習会 横浜市社会福祉センター ホール	篠田岳青	☎090-5418-1799
富山県支部	8月28日(日)	講習会 富山県民共生センター サンフォルテ	大野珀水	☎0766-23-7651
群馬県支部	9月4日(日)	講習会 群馬県生涯学習センター	正木虹映	☎027-327-7624
福島県支部	9月4日(日)	研究会 ビッグアイ	大河原喜恵	☎024-951-0390
東京北支部	9月11日(日)	研究会 草月会館	秋山美晴	☎090-2256-5360
青森県支部	10月10日(月・祝)	研究会 カダール(青森市男女共同参画プラザ)	小村美寿	☎090-5232-9246
香川県支部	10月16日(日)	研究会 高松市生涯学習センター(まなびCAN)	西山麗千	☎0879-52-3068

支部展

第19回 石川県支部展 百万石まつり奉納いけばな展・献花式	6月3日(金)～5日(日)	尾山神社	谷口桂萌	☎0761-24-1813
宮城県支部展	6月4日(土)～6日(月)	せんだいメディアテーク	大友春宵	☎022-278-4980
千葉県支部展『ハナノフク』—未来をみつめて—	9月2日(金)～5日(月)	そごう千葉店 ※家元出品	野村浩秋	☎090-4617-1789
岩手県支部展「未来へつなぐ花」	9月3日(土)・4日(日)	アイーナいわて県民情報交流センター 4階県民プラザ	四役滋陽	☎019-623-5548
京都支部展「秋だ! SOだ! WESTだ!」	10月8日(土)～10日(月・祝)	ホテルエミオン京都 10月9日(日)・10日(月・祝) 草月WEST	森英琴	☎090-3285-1617
山梨県支部展「今を生ける」	11月19日(土)・20日(日)	山梨県立図書館 イベントスペース(西面)	五味鶯恵	☎055-253-1660

各地の展覧会

新しいいけばな主義 リレー個展 麻布十番ギャラリー	6月3日(金)～12日(日) 秋山美晴 / 6月17日(金)～26日(日) 伊藤庭花 / 7月3日(日)～10日(日) 大泉麗仁 / 7月17日(日)～24日(日) 篠田岳青 / 7月29日(金)～8月7日(日) 工藤亜美	これからのいけばなを考える会 korekarano2017ikebana@gmail.com		
四季の会いけばな展「城端別院 善徳寺にいける」	6月4日(土)・5日(日)	城端別院 善徳寺(南砺市)	河合里抱	☎0763-62-0043
越後妻有 大地の芸術祭 2022「妻有いけばな回廊」	7月16日(土)～10月10日(月)	まつだい「農舞台」フィールドミュージアム(新潟県十日町市) ※要チケット 出品者:秋山美晴、今津友青、大谷美香、大塚理司、かとうさとる、千羽理芳、長井理一、日向洋一	大塚理司	☎080-6517-4921
第23回 大澤秀紅社中展「花のカウンタービレ」	9月24日(土)・25日(日)	三島商工会議所 TMOホール	大澤秀紅	☎090-3305-0995
武藤蕉朝社中展 第8回ほっとLounge 'M' お花展	10月30日(日)・31日(月)	草月プラザ	武藤蕉朝	☎080-6808-0031

Introduction of new Study Group overseas

Colorado Springs Sogetsu Study Group
"Nestled in the foothills of the Rocky Mountains"

For the last fifty-five plus years, our members have belonged to the Sogetsu School. Encouraged by our sensei, Midori Allmeyer from Denver, CO, to form our own study group, five women started meeting and planning to make this idea actually happen. These ladies have been on Ikebana boards together for years. We knew who would be full of ideas, enthusiasm and web design, Sara Gilstrap, we knew who would take perfect minutes, Sybil Klein, we knew who would be the best treasurer Paula Butler, and of course, Deborah Demo would keep perfect track of membership and Sharon Schriener loves to host and pull things together.

Our first program/workshop on April 2 was a great success! Thanks to all those who supported us in setting it up!



田中悦子(青洗) 神奈川県/理事
二〇二二年三月十九日 享年九十二歳
布施幸子(萩千) 福岡県/理事
二〇二二年四月十四日 享年八十六歳

「お問合わせ」

TEL: 03-3408-9116
FAX: 03-3408-5828
E-mail: k-keiri@sogetsu.com

お知らせ
2022年9月より、株式会社蘭と草月文化事業株式会社出版部が統合することとなりました。草月会館4階「ショップ」フロアはひとつになります。会員の皆さまへ、より一層のサービス充実を目指してまいりますので、今後ともお引き立てのほどお願い申し上げます。
「お問合わせ」

Information

Calendar of Events 2022

☑ June 8- 26 Early Summer Sogetsu Exhibition
Venue: 2F Lounge @Sogetsu Kaikan

*Exhibition dates and opening times are irregular. Please check the official website before visiting the exhibition.

*All exhibitions will be reported on Sogetsu Website, SNSs and the newsletter.



☑ Aug.13- Aug.21 Summer Holiday *the HQ closed
*Schedules above are subject to change

☑ 103rd Sogetsu Annual Exhibition
Date: Oct 19 (Wed) - Oct 24 (Mon)
Venue: Nihombashi Takashimaya S.C.

We regret to announce that we will accept only the domestic STA members as the exhibitors for this exhibition.
We are considering some virtual program which will

be simultaneously held at the annual exhibition for the overseas members. (e.g., Photo exhibit at the venue, etc.)
Details will be announced in the next issue.

"Summer Flowers" The WEB IEMOTO SEMINAR
The program is open to all who are keen on learning Sogetsu Ikebana.

Go live at 10:00 am (Fri) July 1(Japan time).
Long awaited the new program "Summer Flowers" will be available from July.
Please enjoy the exquisite works by Iemoto, Ms. Reiko TAKENAKA, and Mr. Yoichi HINATA.

<Themes>

Dahlia, Queen of Summer in Japan (HINATA)
Vase comes to life with flowers (HINATA)
Sustainability and a ray of hope (TAKENAKA)
Arrange your living space with vibrance (TAKENAKA)
Summer entrance - harmony in green (Iemoto)
Summer entrance - relaxation in coolness (Iemoto)
Summer entrance - pleasure in colors (Iemoto)
As this program is open to all Sogetsu learners, why not recommend it to your students!

[For the STA members]
The STA Members Site
<https://members.sogetsu.or.jp/en/login/>
[For the NON STA members]
The Sogetsu Official Website
<http://www.sogetsu.or.jp/e/>

Thank you for reading So newsletter.
Looking forward to seeing you on the STA Members' Site from next issue!

[Overseas Affairs Department, Sogetsu Foundation] E-mail: overseas@sogetsu.or.jp FAX: +81-3-3405-4947

INFORMATION | お知らせ

草月文化活動支援基金への
ご協力ありがとうございます
2022年3月〜4月に当基金に寄せられた寄付金は、左記の通りです。
(掲載は一万円以上、敬称略)
本山紅苑、秋山美晴、熊本梨里、竹内双芽、小野紀子、尾中千草社中千創会、東京北支部、丹野霞園、米山照倫、山口香湖、山本彩華、遠藤桜泉、溝口園又、河合里抱、菊池冬純、筋野奈美、梅野恵秀、東京西支部、渡邊緑草、水野秀梢、竹内昌花、小山芳村、関田育圃、富田香晴、美寿フラワーアート、森英琴、篠田岳青、遠山草素

追悼・秋松伸一さん

歴代家元を支えた、卓越した技術

本部特別技術講師の秋松伸一さんが、2022年3月27日にご逝去なさいました。享年81歳。家元より以下の弔辞が捧げられました。

「秋松さんは草月流の土台を支える縁の下の力持ちとして、流にとってなくてはならない大切な存在でした。1950年代末に草月アトリエのスタッフになられてからは、歴代家元の制作現場には常に秋松さんの姿がありました。その卓越した技術で歴代家元の創作活動を力強く支えると共に、後進のアトリエメンバーの育成にも力を注いでくださいました。私も秋松さんからいただいた厳しくもあたたかなアドバイスをどれほど心の支えになったことでしょうか。アトリエを離れてからは、本部特別技術講師として、長年培った熟練の

技術と豊富な経験を惜しみなく会員に伝えることに尽力されました。

秋松さんの残された草月への大きな愛情と優れた技術は、指導を受けた多くの草月人にとっても絶えることなく受け継がれていくことでしょう。今も秋松さんの大らかなお声が聞こえてくるような気がします。どうぞ蒼風、霞、宏とともに草月の行く末をいつまでも見守っててください。心からの感謝の思いを捧げつつ、安らかなるご冥福をお祈り致します。」



●あきまつ・しんいち / 1941年生まれ。花判に入社。1950年代末、花判からの派遣で草月流三田教場の手伝いを行う。赤坂に草月会館ができたころアトリエスタッフに。歴代家元の海外出張に随行。本部教室では「本部特別技術講師 秋松伸一の講座」などを担当。主に竹の造形技術を伝え後進育成に尽力した。

草月流リーフレット
PRにご活用ください

地図のように小さく折りたためるリーフレットです。通常はコンパクトなサイズですが、広げるとB3サイズ(364×515mm)になり、迫力ある家元作品が登場します。日本語、英語、中国語が併記され、ワールドワイドに草月流をPRできます。

より多くの方へ草月流を知っていただくために、無料で配布します(送料はご負担いただけます)。支部展、社中展、イベントなどでぜひご活用ください。

サイズ: 93×128mm (たたんだ状態)

[お問合わせ] 総務課
TEL: 03-3408-1154
FAX: 03-3405-4947
E-mail: somu@sogetsu.or.jp

IMPORTANT**This is the last So newsletter you receive by post!**

Dear overseas STA members,

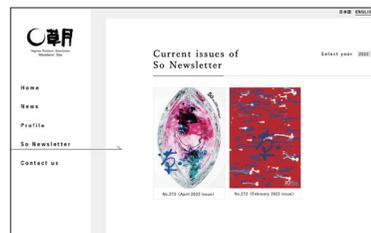
As announced in February and April issue, So Newsletter will be published online only from August issue. Postal delivery to the overseas STA members will cease with the current issue (June 2022). Also, the membership card will be digital from the year 2023.

This is to ensure that Sogetsu information is delivered promptly to the overseas members, not interrupted by postal situations. The new online newsletter will be posted on the STA members site in the easy-to-read style with the table of contents and good photos.

To read So Newsletter and for future correspondence

Log-in the STA members site! This is the link.
<https://members.sogetsu.or.jp/en/login/>

You can read the latest articles immediately after the update on the STA members' website page. **The update will be done on the first day of even-numbered months.** *For the April issue, the date is in mid-April.



For information on how to log in, please refer to 'The members' site for the Sogetsu Teachers Association (STA)' enclosed in this issue.

Notice**You will need your STA number and password to log in.**

To reset your password, your date of birth and e-mail address registered at Headquarters are required. If you have not yet registered them, please contact the Overseas Affairs Department.

*please register your most used e-mail address.

*Please set your e-mail address so that you can receive e-mails from the Headquarters (@sogetsu.or.jp).

*If you cannot log-in even if you have already paid membership due, please contact Overseas Affairs Department.

What are the benefits of the STA Members' Site?

In addition to the access to the digital Newsletter, this members' only site is full of special contents, such as *Iemoto Akane's* special messages, her demonstration videos, online viewing of the Sogetsu official exhibitions, and rare archive videos of past *Iemotos*. The function and contents will continue to expand.

Dear Overseas Sogetsu Teachers,

Thank you for your continuous support and dedication to Sogetsu School.

At the start of online publication of our newsletter, we would like to ask for your cooperation to encourage your students to utilize the STA members' site. We believe that this site will inspire them to further development of their ikebana activities, which must be beneficial for the group overall. We are working for our Overseas members to enjoy this site and Sogetsu Ikebana.

If you have difficulty using e-mail, please inform us at the contact details below.

Inquiries [Overseas Affairs Department, Sogetsu Foundation]

7-2-21 Akasaka Minato-ku, Tokyo 107-8505, JAPAN / FAX: +81-3-3405-4947

『草 /So Newsletter』の郵送配送は今号が最後!

海外在住の会員の皆さまへの機関誌『草 /So Newsletter』の郵送によるお届けは今号をもって終了し、

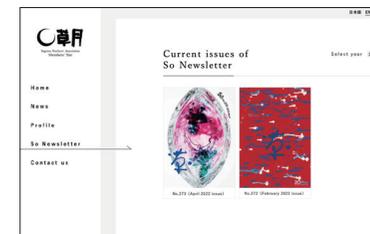
また紙での会員証の発行は2022年度(2022年4月発送)までとなります。

今後はスマートフォンやPCからウェブサイト「草月指導者連盟メンバーズサイト」にてデジタル会員証が発行され、機関誌電子版をご覧ください。

**メンバーズサイトへログインし、
『草 /So Newsletter』を閲覧してみましょう!**

メンバーズサイト内の『草 /So Newsletter』は偶数月の1日に更新されます。
(4月号のみ、4月中旬に更新)

最新の記事をすぐにお読みいただけます。



メンバーズサイトへのログイン方法については、今号同封の「The members' site for the Sogetsu Teachers Association (STA)」をご参照ください。

注意!

メンバーズサイトを見るためには、STA会員番号とパスワードが必要です。
パスワードが分からない方は海外課までご連絡ください。

該当年度の草月指導者連盟会費が未納入の場合、メンバーズサイトへログインができません。

※一番使用頻度が高いメールアドレスを、海外課(overseas@sogetsu.or.jp)へお知らせください。

※ドメイン設定(受信拒否設定)をされている方は、「sogetsu.or.jp」からのメールを受信できるようにドメイン設定を解除していただくか、又は「@sogetsu.or.jp」を受信リストに加えていただきますよう、お願いいたします。

※会費を納入済みに関わらず、ログインができない場合は海外課までお問い合わせください。

●メンバーズサイトご利用の特典

機関誌のデジタル版のほか、茜家元のデモンストレーションや特別メッセージ、本部主催展覧会作品のオンライン視聴、サイト経由で過去のいけばなLIVE等のスペシャル映像(一部有料)が視聴可能!

その他、最新情報をいち早くご確認いただけます。

●指導者の皆さまへお願い

いつも草月流いけばなへのご支援・ご協力をありがと

うございます。機関誌『草 /So Newsletter』のオンライン化に伴い、指導者の皆さまにはぜひ生徒の皆さまへのSTAメンバーズサイトの活用をお声がけください。このサイトをきっかけに、海外で草月流いけばなを学んでくださっている皆さまの活動がさらに発展し、教室全体にとっても有益なものになると考えています。海外の会員の皆さまに、このサイトと草月流いけばなを楽しんでいただけるようこれからも改善に努めてまいりますので、今後とも草月流をよろしくお願いたします。

メールのご利用が困難な方は、お手数ではございますが下記連絡先までその旨をお知らせください。

お問い合わせ [海外課]

FAX: 03-3405-4947 / 〒107-8505 東京都港区赤坂7-2-21

One Two Step ③

My life with Ikebana / Koyo Sasaki

Master Instructors of the HQ talk about their thoughts on ikebana and memorable episodes

People are refined by other people.

I was initiated into the Sogetsu school in 1954 on the advice of my mother. *Iemoto Sofu* said, "Flowers become human in ikebana", *Iemoto Hiroshi* did, "Ikebana that does not depend on flowers", and *Iemoto Akane* did, "Ikebana begins by responding to the message of plants". Bearing in mind their precious teaching, I have learnt a lot from plants in my Ikebana life.

When I exhibited a relief using nails at the Sogetsu Annual Exhibition, *Iemoto Sofu* looked at my drawing and said, "Why not move one of these lines? It would change the range of the work." His words greatly influenced my subsequent works, and I created a series of relief work using Nails. The one exhibited at the 57th Sogetsu Exhibition (bottom right photo) was purchased by an overseas visitor on the recommendation from *Iemoto Sofu*.

I used to visit the Sogetsu Kiln in Fukui every year. *Iemoto Hiroshi* would ask me, "What do you want to make?" I remember it fondly every time I use a vase I made at the Kiln. The teachings of successive *Iemotos* have been my inspiration and thought as an

ikebana artist.

I am grateful for ikebana and feel happy every day.

本部講師が語るいけばなへの思い、心に残るエピソード

「人は人によって磨かれる」

1954年に母の勧めで草月流に入門しました。初代家元蒼風先生の「花はいけたら、人になる」、三代目宏家元の「花にたよらぬ「はな」、現菫家元の「いけばなは植物の声に耳を傾けることから始まる」。歴代の家元のお言葉にあるように、植物から様々なことを学んできました。

草月展に釘を用いたレリーフを出品した際には、蒼風先生が事前にデッサンをご覧になって、「この線を一本動かすと作品の世界が変わる」と貴重なアドバイスをくださいました。この言葉はその後の作品に大きく響き、釘を用いたレリーフ制作はシリーズワークとなりました。第57回草月展に出品したレリーフ(写真)は蒼風先生を通じて海外の方にご購入いただきました。

福井の草月陶房には毎年伺っておりました。宏先生が「何を作りたいのか?」と聞いてくださり助言をいただいたことなど、陶房で制作した花器を使用する度に懐かしく思い出されます。歴代家元の教えは私のいけばな作家としての糧となっています。

いけばなに感謝し、日々幸せを感じております。

Koyo Sasaki

Known for her versatility, she has undertaken numerous flowerworks for hotels, department stores, corporate buildings and so on. While she is uncompromising in her creativity and artistry, she has been a very popular teacher because of her generous and understanding personality. Her class is alight with her infectious smile and warm atmosphere. Her motto is "People are refined by other people".

Certificate of Meritorious Achievements (1997,2006,2017)

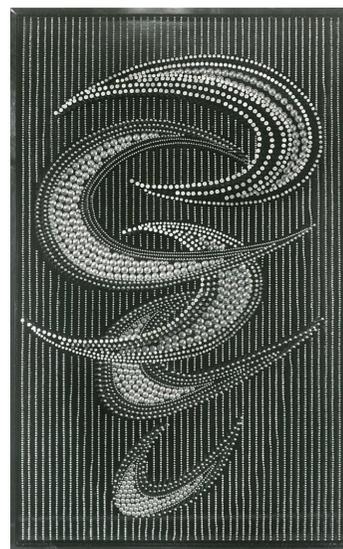
Sogetsu Distinction Award (1977)

Honorary Member, Japan Ikebana Art Association



佐々木紅葉

1954年に草月流入門。1962年に指導を始める。ホテルやデパート、企業のロビーや駅などで数多くのフラワーワークを手掛けると同時に、釘のレリーフをシリーズとして手掛けるなど、多彩な作風で知られる。創造にも指導にも妥協を許さない一方で、人を包み込む笑顔と大らかな人柄により、社中ではいつも生徒の笑顔が絶えない。座右の銘は「人は人によって磨かれる」。日本いけばな芸術協会名誉会員。草月栄誉賞(1997年、2006年、2017年)、模範賞(1977年)など受賞多数



Information

Sogetsu Netherland Branch will exhibit their works at Japan Pavilion

International Horticultural Expo Expo 2022 Floriade Almere, The Netherlands



The Netherlands branch

Floriade is the international horticultural exposition which first opened in 1960 and has been held in the Netherlands every 10 years since 1972. It has the longest history and tradition of exhibiting excellent flowering, landscaping, and horticultural techniques of Europe and other countries around the world.

In the Japan Pavilion, the exhibition hall of the Japanese Government, the beautiful original landscape of Satoyama, a traditional recycling-oriented lifestyle in harmony with nature, and Japan's excellent floriculture and its part in society will be exhibited together. The Japanese Government will include an exhibition of ikebana in the introduction of Japanese eco-friendly agricultural systems and culture.

As part of the introduction of traditional Japanese floral culture, Sogetsu has been asked by the Japanese Government to participate in this exhibition. Sogetsu will exhibit their works in the Japan Pavilion (an exhibition hall inspired by a Japanese farmhouse). For the Sogetsu Exhibition, the Netherlands Sogetsu Branch will commit themselves on behalf of Sogetsu school. The Branch members, our very talented Sogetsu ikebanists, will showcase their inspiration and talent through this wonderful opportunity. Sogetsu Ikebanists members from around Europe will also join the project and work with the branch to create the works using fresh materials.

- International Horticultural Expo 2022
Period: 14th April (Thu.), 2022 - 9th Oct. (Sun), 2022
Place: Floriade Almere, The Netherlands
[The Sogetsu exhibition]
24 June (Fri) to 17 August (Wed) 2022
Place: Japan Pavillion in the Expo site
Theme of Japan Pavillion : SATOYAMA Farm Garden

Entrance tickets and Map
<https://floriade.com/en/>



2022年 アルメーレ国際園芸博覧会 (フロリアード) 草月オランダ支部によるいけばな展示

フロリアードとは、園芸先進国であるオランダ王国において、1960年に始まり、1972年以降10年に一度開催されてきた国際イベント。欧州をはじめ世界各国が優れた花きや造園、園芸技術等を出展しています。

日本国政府による出展会場「日本館」(Japan Pavillion)では、今回の博覧会のテーマ「Growing Green Cities」のもと、自然と調和した伝統的な循環型のライフスタイルである「里山」の美しい風景と日本の優れた花き・花き文化を一体的に展示します。日本の花の伝統文化紹介の一環として、日本政府の依頼により、草月流現地オランダ支部が日本館(日本の関東地方の農家をイメージした展示館)において作品を展示します。

- 2022年アルメーレ国際園芸博覧会(フロリアード)
2022年4月14日(木)~10月9日(日)
オランダ王国アルメーレ市
[草月流の展示] 2022年6月24日(金)~8月17日(水)
場所: 博覧会園内 日本館
日本館のテーマ: 里山ファームガーデン

入場料やアクセスは公式ホームページをご覧ください。
<https://floriade.com/en/>



Japan Pavillion in the Expo site

Keep Right on Talking! No.82 : Akane Teshigahara

Golf and English Conversation

How time flies! This year is almost half over already. As the saying goes, “The year’s plans should be made on New Year’s Day,” and everyone does set some goals at the beginning of the year. How is your progress now that several months have passed?

I also set goals for myself that I wanted to achieve this year: golf and English conversation. I don’t like being pushed into doing something. Even so, I know that I will never do anything unless I am cornered, so I put pressure on myself by declaring my goals everywhere, including in my classes for the Teachers’ Workshop.

First, let me talk about golf. Although my father and mother often invited me to join them, I always refused, telling them that I wasn’t interested. However, since my two sons are both avid golfers, I thought to myself, “Wouldn’t it be fun if the three of us played together on the golf course. It would also be great exercise!” And so, I decided to give it a try. I bought a complete set of golf clubs and reported it to my sons right away, who seemed supportive about my taking up golf. Right now, I’m only going to the driving range to practice, but I hope to make my debut on the course with both of them at the end of this year. And I also have a vision of holding the Sogetsu Cup eventually. For golf lovers, please look forward to it! Next, let’s move on to English conversation. I have tried everything to improve my English speaking skills, including one-on-one lessons, but it wasn’t my nature, and I ended up just as I am now. However, I dreamed that I was speaking English fluently, and according to those around me, I speak English continuously when I have had a few drinks, so I could not help but feel once again a strong desire to speak English. Also, at overseas seminars, where communication is often conducted through interpreters, I have encountered situations where I find myself thinking, “Hmm? The nuance of what I wanted to say seemed to be slightly different from what the interpreter explained...” One of the reasons I decided to learn English conversation seriously was that I wanted to say how I feel directly to people in other countries in my own words.

It has been 20 years since I became *Iemoto*, and I have been frantically running through the days so far.



*I have my golf set, and I'm ready to go.
I will practice even harder from now on!*

Until now, I had been content with that, but perhaps I was using work as an excuse to give up on new challenges. Often, people use their 60th birthday as an opportunity to re-evaluate their lives and set goals for a second life, but as you know, I celebrated my 60th birthday right in the middle of the COVID-19 pandemic, so I have kind of let that pass me by. However, now that Ken has decided to take over as the next *Iemoto*, I guess I have a little more mental space, and the desire to “improve myself even more” has come naturally. What is important first is the desire to start something. You may fall behind, but that is okay. No matter how old you are, finding new challenges and enjoyment in this way enriches your life and gives you hope. There are already lots of these people at Sogetsu who are willing to take on such challenges, so I cannot let myself be outdone. Now that I have once again declared it to all of our members here, so I’m finally unable to give up (laughs)! I will keep on towards these goals in the second half of this year at my own pace.

Message from Kiri Teshigahara

Hello Dear Readers,

This will be my last column exploring my memories of my father. Ever since I went to the U.S. to study art, the endless wisdom and creativity that so fluidly poured out from my father was something I could not ignore. As many of you already know he excelled in not one, but many different artistic expressions. While he was fairly well-known in Japan, it seemed he was even more respected and known in Europe and America. In art school, I met many other students in the film department, who were just shocked to hear that he was my father. Throughout my life whenever I had encountered anyone working in the film industry they would tell me how much they respected him. He enjoyed coming to New York to meet my fellow artists friends. They were young and interesting and different from the youth in Japan. For my father, his environment and who he surrounded himself with was just as important as anything else in the world. In some ways his brilliant mind seemed to be magnetically drawn to other brilliant minds alike. I had the fortune and privilege to meet some of those people for example Jasper Johns, Yoko Ono, Christo and Jeanne-Claude, Isamu Noguchi, Arakawa and Gins, Robert Rauschenberg, Andy Warhol, Yayoi Kusama, Leo Castelli, Sam Francis, Georges Mathieu, Jean Tinguely, Merce Cunningham, Tatsuya Nakadai, Kyoko Kishida, Shintaro Katsu, Issey Miyake, Pierre Cardin, and many others.

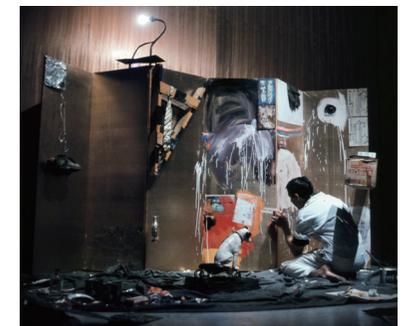
I went to art college in New York and there I met my husband who was a painter. I majored in photography because I was influenced by my father of course. He used to take still photos at the same time that he was making his own films. They were such inspiring photos. He had a great ability to capture people in their raw and natural state. He shot many still photos when he was directing. One day he said to me, “Kiri, do you want to be in my movie? There are several lines you will have to read in English.” I had already learned basic English, was obsessed with American rock bands at the time, and had certainly wanted to be in his films. I had then met one of the lead actors from the film *Summer Soldiers* (1972), folk singer Keith Sykes whom my father scouted at a music venue in New York City. Since my father had trained as a documentary filmmaker and already had a penchant for using non-actors, he thought it would be a good idea to cast me although I was just a teenager then. I remember Keith was so kind and sweet, and a true musician. He had even given me his peace sign necklace which was the same necklace he wore in my father’s film. A few decades later, I had run into Keith and he immediately told me how much he appreciated being in my father’s film. He said to me, “It was such an amazing experience to go to Japan and be in Teshigahara’s great film. How I treasure that time! I will never forget it and I thank him all the time.” Moreover, my father relished casting his family and friends in his own films regardless of their non-existent acting backgrounds. My sister, my husband at the time, his friends, and his employees were all cast in his movies.

When we were in France we visited the Aix-en-Provence countryside. It was the first day of the new year so every restaurant was closed. We were walking around for miles and miles and found this little quaint restaurant and decided to go in. Everybody was starving. When we walked in, the manager of the restaurant rushed in to drive us away because none of us wore any formal clothes. Everyone else inside were all dressed up. Furthermore, there were no kids inside and my sisters were still young. But once I mentioned who my father was, the manager completely changed his mind and said “Pardon me, of course Mr. Hiroshi Teshigahara we are honored to have you with us! Such an amazing film director.” So we went in with our casual clothing and some of the other guests recognized him and applauded him from their tables. As a family outing this was both embarrassing and amazing at the same time.

I have a huge respect for him as an artist. As a person, he used to love to eat gourmet food, always eating the best of the best wherever he traveled. But as he got older, when we traveled to a foreign country for Ikebana demonstrations and workshops or art installations, he only wanted to eat Japanese food. When we went to India, we brought boxes full of Japanese packaged food, rice, miso soup, fish cans, etc. We used to all eat that in my father’s hotel room. Those packaged Japanese foods were far easier for all of us to consume than the incredibly spicy Indian food which we all struggled with. He used to love coming to New York and enjoyed having my toddler son around him wherever he went. He loved to take him to restaurants and feed him soba or udon. He also enjoyed meeting great artists and friends who deeply inspired him in New York. He relished going to art exhibitions and shows in New York and it is thanks to him that I’ve met so many interesting people. Every time we would travel abroad to do an Ikebana event, he used to ask all of his assistants and me to come visit his room to share a nightcap with him after a hard day of work, even though we were all dead tired.

I wish that I was old enough to have witnessed the Sogetsu Art Center which my father was the director and founder of from 1958-1971. I was told that in those days, when you would walk up to the Sogetsu building, something was always brewing inside the theater. SAC was an artist-run space for artists (one of the first in Japan), but also so much more than that. Hiroshi’s approach was to give the artists control to produce their own events and this germinated into performance, avant-garde composition, fluxus events, live jazz, experimental theater, live painting, sound art, foreign cinema, expanded cinema and dance. It was really a place where people could exchange ideas and see the interchange across different artistic mediums. Many have said that it also represented the first place that opened doors to cross-cultural productions between different countries. There was no such place like it anywhere else in the world, which is the main reason I wish I could’ve observed SAC in person! Hiroshi had a huge respect for his father, Sofu, since he was the *Iemoto* and founder of Sogetsu. But at the same time, when they traveled together abroad, he realized what an amazing artist Sofu was. Together they met Picasso, Dali, Miro and expanded their horizons by seeing the world beyond Asia, which really set in the foundation of what became my father’s core values to life and making art.

Starting now, I wish to meet all of you Sogetsu lovers in the world. I know there are approximately 125 branches in the world. I would like to have conversations with each and everyone of you if we can and I hope to get to know you. Thank you to all of the foreign language speaking Sogetsu members for reading my column!



The enquiry session for Rauschenberg. Robert Rauschenberg, making his work in concentration on the stage, without answering any question, in 1964.